

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 スワヒリ農村ボンデイ社会におけるココヤシ文化

氏 名 高村 美也子

論 文 内 容 の 要 旨

本論では、東アフリカ・タンザニア・スワヒリ農村のボンデイ族を事例に、ココヤシ利用の社会的、経済的、文化的意味を明らかにする。

本研究で取り上げるココヤシは、ヤシ科植物に属する。ヤシ科植物は、約 180 属 2,680 種(Dransfield, Uhl 他 2008)ある。ヤシ科植物は、世界中に分布し、各地で利用されている。特にココヤシは全ての部位が利用できる有用植物として価値が高い。油脂作物としての価値が高く栽培地では、主要カロリー源となっている。

ココヤシの原産地は、東南アジアと推測されている(杉村、松井 1998)。現在のココヤシの分布地域は、北緯 25 度から南緯 25 度の全赤道地域の熱帯・亜熱帯沿岸部である。その一地域が東アフリカの沿岸部である。ココヤシ栽培は東アフリカへ伝播し、アラブとドイツ及びイギリスによるプランテーションによって、東アフリカ沿岸部へ広がった。

現在のココヤシの実の生産量は、アジアが約 89%を占め、アメリカが 8%、アフリカが 3%である。圧倒的にアジアのココヤシ生産量は多い。アフリカの中では、タンザニアが最も生産量が多く、世界の 11 位である。タンザニア国内においては、北東部のタンガ州が最もココヤシを生産している。

本研究では、タンザニア・タンガ州・ムヘザ県・ムクジ村のボンデイ族に焦点をあてる。ボンデイ族の居住地は、アラブの拠点地の後背地に位置し、アラブの影響を受けている。ボンデイ族は、農業の一環としてココヤシを栽培している。本論は、赤道地域でカロリー源として重要なココヤシが、どのように東アフリカ・スワヒリ農村の人々によって利用されているのか明らかにするものである。

ムヘザ県には、人口の 2%の身体障がい者がいる。ムクジ村にも身体障がい者の人々を見かける。そして、ムクジ村の戸数のうち、3 分の 1 が女性世帯主である。村にお

ける現金獲得の手段は、水販売、家畜の飼料集め、煉瓦づくり、建築、炭販売、パン作り、食堂などがあるが、多くは重労働である。そのため、女性や体が不自由な男性にとって、現金収入の手段に限られる。ココヤシ利用と女性及び体が不自由な男性の間のココヤシ作業の分配にも着目して論じる。

ムクジ村の生業は農業で、主な生産物はトウモロコシ、キャッサバ、豆類、オレンジ、ココヤシなどである。その内、オレンジとココヤシが換金作物である。但し、オレンジは一部の富裕層に限られる。ココヤシは、殆どの家庭で栽培されている。

ココヤシは、実、葉、樹液など諸部位それぞれに利用価値がある。ボンデイ族は、これらを、商、住、食、儀礼に利用している。

ココヤシの葉は、大型羽状複葉で、小葉、葉柄、葉軸、葉脈で構成されている。複葉と葉軸からは、籠、扉、壁、及び塀がつくられる。小葉は屋根葺きの材料として加工される。小葉の葉脈は、砂地を掃くホウキになる。葉柄は、燃料として使われる。特に扉、壁、塀、葺き屋根の材料づくりは、金銭も生み出す。作業の分配については、次の通りである。

健康な男性は、葉の採取、籠、扉、壁、塀づくり、葺き屋根の修繕を行う。

女性と体が不自由な男性は、籠作り、葺き屋根材料づくりを行う。

ココヤシの実、外果皮、中果皮、内果皮、胚乳、胚乳液の5つの層に分かれ、各々利用価値がある。外果皮と中果皮は主に燃料となり中果皮の繊維は食器洗いブラシ(たわし)として利用される。内果皮は、最も利用範囲が広く、主に台所用品及び燃料として利用される。台所用品とは、コップ、お椀、おたま、火種運び容器などである。特におたまと火種運び容器と、毎日使われている。胚乳液は、細菌のない子供と高齢者によい飲料である。

中でも最も重要なのが胚乳である。胚乳を加工したココナッツ・ミルクを料理に入れると、ボンデイ族の料理がまるやかで高カロリーの料理になる。

その他実の関係部位には、つぼみの苞と実をつける花序があり、これらも燃料として利用される。

ココヤシの実、商品としても販売される。村の中では少量で販売されるが、村外には大量に運ばれ販売される。

ココヤシの実に関する作業の分配は次の通りである。

健康な男性は、実の収穫、果皮剥がし、村内と村外での種子販売を行う。

体の不自由な男性は、村内での種子の小規模販売を行う。

女性は、村内での種子の小規模販売を行い、外果皮、中果皮、内果皮、胚乳、苞・花序を台所で利用している。

女性と男性では、男性は主に商品経済の中でのココヤシの実に重点を置き、女性は、ココヤシの実を利用するという相違点がある。

ココヤシの樹液は、自然に醗酵して酒になる。ココヤシ酒は、日常的に飲まれている。

るが、儀礼にも使用される。ココヤシ酒は、糖分を含み、47kcal/100g のカロリーがあるため、村人の糖分とカロリー補給となる。但し、時間経過と酢酸化するため村内消費の酒である。

樹液採取人ムゲマがココヤシ酒のもとになるココヤシの樹液を採取し、酒場に卸す。酒場運営者は、たいていが女性である。酒場の客はほぼ全員が男性で、客を求めて来るのが、おつまみ販売の女性である。酒の商いの仕事と飲酒においては、性差が見られた。

酒の商いに関わる仕事の性差

男性は、樹液採取、酒場への樹液卸しを行う。

女性は、酒づくり、酒販売、おつまみ販売を行う。

飲酒における性差

男性は、酒場、仕事先、儀礼の場、自宅のどこでも酒を飲むことができる。

女性は、自宅のみである。酒場に行くのは可能だが、家族と一緒になければならない。例外は、高齢の女性が酒場へ行くのは許されている。

ココヤシの酒の消費は、儀礼中の使用が重要である。祝祭である結婚式の一連の儀礼にココヤシ酒は振まわれる。土着信仰では、山もしくは巨木の神に、墓の祖先に供物としてココヤシ酒を注ぐ。ココヤシ酒が人々と祖霊及び神とを結ぶ役割を果たしている。その上、村内消費の酒であることから、遠方滞在者にとって故郷の酒であり、村に住む人々、さらに祖先を繋げている。ココヤシ酒は、ボンデイ族にとって食文化の一つであり、現金収入をもたらし、儀礼に使用される神聖な酒である。

ボンデイ族のココヤシ利用は、儀礼、食、住、商の領域にまたがっている。その用途は、神聖な酒の儀礼の領域、嗜好品としての酒、栄養源、飲料、燃料などの食文化の領域、屋根、壁、塀などの住文化の領域、現金収入としての商いの領域である。

スワヒリ農村ムクジ村におけるココヤシは、伝統的な住文化、食文化、宗教の基盤であり、書状経済に対応する商を付随し、ボンデイ族の社会を支えているといえる。

表：ボンデイ族のココヤシ利用の分類

部位	領域	用途
樹液	儀礼	神聖な酒
	実	食
栄養源		
味付け		
葉	住	飲料
		食器
	商	燃料
壁		
		塀
		現金収入